

# 「政策決定の場への女性の参画」

～地方議会女性議員を増やすために～

「女性が拓く政治の道」グループ

植竹恵美香（越谷市） 倉岡舞（さいたま市）

小助川美穂（吉川市） 齋藤万紀子（羽生市）

# 【発表の流れ】

1. 調査研究の背景
2. 地方議会の女性議員の現状
3. 女性議員の増加を阻む要因
4. フィールドワークの方法
5. フィールドワークの検証
6. 結論と今後の課題



# 1. 調査研究の背景

- 「**グローバル・ジェンダー・ギャップ指数**」

149カ国中**110位**、政治分野は**125位**（2018年度）

⇒ 女性の政治参画が進まず、女性の閣僚や議員が少ないことが主な原因

- 2018年5月「**政治分野における男女共同参画の推進に関する法律**」施行

⇒ 男女の候補者の数ができる限り均等となるよう努力することが求められている

- 「**パリテ法**」 ⇒ 議員の男女比率を同率にする

- 「**クオータ制**」 ⇒ 一定の人数や比率を割り当てる手法

**130カ国**で導入（2018年3月現在）

# 1. 背景

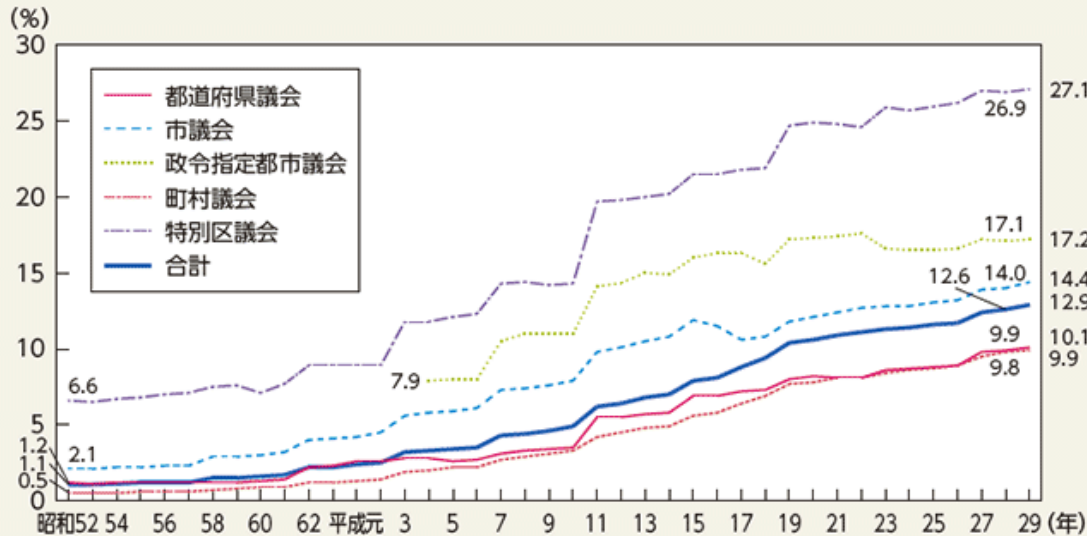
- 男女比が偏った議会では市民の声を十分に反映できず、議論や政策にも偏りが生じる
- 女性の視点や母親の声を議会に反映させることができ、暮らしやすい社会へとつながる



**政治分野の男女共同参画を推進し  
女性議員を増やしていくことが重要**

## 2. 地方議会の女性議員の現状

I-1-6図 地方議会における女性議員の割合の推移



特別区議会	27.1%
政令指定都市議会	17.2%
市議会全体	14.4%
都道府県議会	10.1%
町村議会	9.9%

(備考) 1. 総務省「地方公共団体の議会の議員及び長の所属党派別人員調等」をもとに内閣府において作成。  
 2. 各年12月末現在。  
 3. 市議会は政令指定都市議会を含む。なお、合計は都道府県議会及び市区町村議会の合計。

内閣府男女共同参画局 男女共同白書 平成30年度版より抜粋

- 都市部で高く、地方で低い
- 全ての都道府県議会に女性議員がいる一方、3割以上の町村議会で女性議員ゼロ  
(2017年12月末現在)

## 2. 地方議会の女性議員の現状

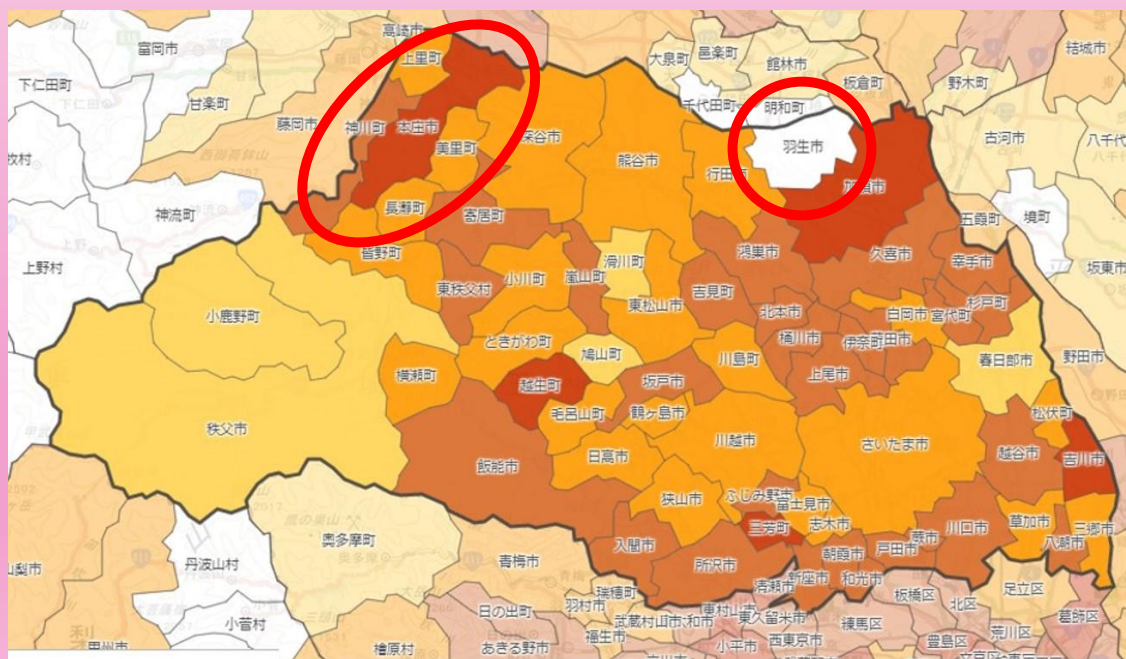
### 【埼玉県内市町村議会女性議員の割合】

市区議会 **21.3%** (第2位)

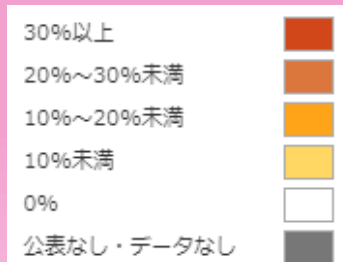
町村議会 **18.3%** (第3位)

### 【市議会 TOP5】

- 1 **本庄市** 8人 / 20人 40.0%
- 2 吉川市 7人 / 20人 35.0%
- 3 加須市 9人 / 28人 32.1%
- 4 八潮市 6人 / 21人 28.6%
- 4 幸手市 4人 / 14人 28.6%



### ゼロ議会 羽生市



市町村女性参画状況見える化マップ (平成29年12月31日現在)

## 3. 女性議員の増加を阻む要因

### ① 政治への無関心

政治は男性が行うものという思い込み  
日常の生活に満足していて危機感を感じない  
議員と市民の距離が遠い

### ② 女性特有の問題

子育てとの両立が困難  
家族の応援が得られない  
ロールモデルが少ない

### ③ 政治の仕組み

男性議員に有利な選挙制度（小選挙区制）  
供託金が高額



# 3. 女性議員の増加を阻む要因

全国の女性地方議員約4000名を対象にアンケート調査を実施

## 地方議会において女性議員の増加を阻む3つの課題

### 1 政治は男性のものという意識（固定的性別役割分担意識）がある

- アンケートで、「女性議員が少ない原因として考えられる理由」を質問  
⇒「政治は男性が行うものという固定的な考え方が強い」との回答が59.1%
- 女性議員比率が高い議会に所属する議員ほど、「男性議員の理解やサポートがない」ことを課題としない傾向がある。

### 2 議員活動と家庭生活の両立環境が整備されていない

- アンケートで、育児に伴う休暇や休業制度、託児所や授乳室の有無を質問  
⇒休暇や休業は6割以上が規定なしと回答。託児所や授乳室は9割以上がなしと回答。
- アンケートで、40歳代以下で未就学児を抱える女性議員の回答を抽出  
⇒「議員活動と育児の両立が課題である」との回答が78.8%

### 3 経済的な負担が大きい

- アンケートで、選挙資金における自己資金の割合を質問  
⇒自己資金の割合は平均で6割程度。  
⇒女性議員比率が高い議会に所属する議員ほど、選挙費用の自己資金の割合が小さい傾向にある。



## 4. フィールドワークの方法

### ① 女性市議会議員インタビュー・アンケート

(2018年11月)

埼玉県内の女性市議会議員 4 名に対しインタビュー・アンケート

- ・「選挙前」…立候補したきっかけ、周囲の反応、準備中の問題点
- ・「選挙期間中」…印象に残っていること、苦勞したこと
- ・「当選後」…議員活動で大切にしていること、ロールモデル、議員活動と子育ての両立
- ・「女性の政治参画について」…女性議員が少ない要因、増えることのメリット、増やすために必要なこと

### ② 議会・委員会傍聴

(2018年9～10月)

さいたま市・羽生市・吉川市の市議会や委員会の傍聴  
埼玉県議会の傍聴

## 4. フィールドワークの方法

### ③ 本庄市と羽生市の比較

市議会女性議員率 1 位の本庄市と  
女性ゼロ議会の羽生市について調査



「埼玉つながる女性の会」の様子  
(2018年10月)

### ④ 活動参加

埼玉県内で女性の政治参画を目的として行われている  
活動に参加

- ・「埼玉つながる女性の会」 (2018年10月)
- ・「怒れる女子会」 in越谷市 (2018年11月)
- ・「クオータ制を推進する会 (Qの会)」 (2019年1月)

# 5. フィールドワークの検証

## ① 女性市議会議員インタビュー・アンケート

- ・ 政治を特別なものと捉えず、ボランティアの延長や仕事の一選択として議員になった
  - ⇒ 女性が議員を目指すには、政治を身近に感じることができる環境が必要である
- ・ 選挙中に女性であるが故のヤジや差別を受けることがあった
  - ⇒ 世間には「政治は男性が行うもの」という認識が根強く残っている
- ・ 議員活動は夜間や休日にもあり、家族や周囲の理解がないと家庭との両立が難しい
  - ⇒ 女性議員のサポート制度があると望ましい
- ・ 議会に女性の視点は必要であると感じているが、日々の活動が多忙であり、女性議員を増やすための行動をしている女性議員は少ない
  - ⇒ 女性議員のノウハウを伝える勉強会の必要性

# 5. フィールドワークの検証

## ② 議会・委員会傍聴

- ・ 私たち以外の傍聴者がほとんどいない

  - ⇒ 市民が議会を身近に感じていない

- ・ 予算委員会で男性議員が子育てNPOの存在を知らず、必要性を感じていなかった

  - ⇒ 議会には多様性が必要であり、生活に密着した女性の視点がかかせない

## 5. フィールドワークの検証

### ③ 本庄市と羽生市の比較

#### <ロールモデルとなる女性議員の存在>

本庄市…6期務めている女性議員が2名 直近3回の選挙で立候補25%超

羽生市…2003年に1期務めて以降、女性議員ゼロ

⇒ ロールモデルとなる女性議員がいると立候補しやすい

#### <市民の交流活動について>

本庄市…児童センター3箇所・市民活動交流センター「はにぼんプラザ」  
複合施設「アスピアこだま」⇒市民交流が活発

羽生市…こども園や保育園に支援センターがあるが児童センターはゼロ  
コミュニティ施設「羽生市民プラザ」  
女性センター「パープル羽生」⇒若者・母親の利用が少ない

⇒ 市民同士・母親同士の交流が女性議員の輩出につながる

## 5. フィールドワークの検証

### ④ 活動参加

- ・少しのきっかけで誰もが気軽に政治に参加し、つながっていける人と人のつながりの大切さを感じた

⇒ 活動していくにはネットワーク作りが必要

- ・どの会もしっかりとした信念を持って活動している自ら問題提起をしていくことの重要性も感じた

⇒ しっかりとしたスローガンを掲げ、それに基づいた活動が必要



## 6. 結論と今後の課題

### 埼玉県内の市議会女性議員を増やすため ネットワークを設立する



【スローガン】

**女性が女性を応援！  
チームで目指す女性の政治参画**

## 6. 結論と今後の課題

### 【活動内容】

- 埼玉県内の女性議員に協力を依頼し、女性議員が埼玉県全体のロールモデルとなることを目指す
- 女性議員が講師となり、女性議員を志す人、政治に興味がある人に対して勉強会を開催する
- 地域やNPOで活躍する女性とつながり、女性議員の立候補者を発掘し、皆で支え応援する
- 女性議員が議員活動と家庭の両立ができるよう、家事サポートを検討する

With You さいたまを活動拠点として  
来年度より活動開始